

教育実践学会

第 16 回大会

プログラム

会 期 : 2008 年 7 月 12 日 (土)

常磐大学同窓会館
(茨城県水戸市新荘 1-7-26)

教育実践学会事務局

〒310-8585 茨城県水戸市見和 1-430-1
常磐大学 人間科学部 教育学科 森山賢一研究室内
TEL/FAX : 029-232-2574
E-mail : kenichim@tokiwa.ac.jp

大会参加要項

1. 受付： 7月12日(土) 9:30より常磐大学同窓会館エントランスホールで行います。
2. 参加費： 会員は、1,000円
非会員は、1,500円
院生・学生は、500円 ※発表要旨集録代を含む
3. 学会費： 2008年度会費は、5,000円です。(2007年度以前の会費が未納の方は、合わせて納入下さいますようお願い申し上げます。)
4. 情報コーナー： 当日、研究発表資料や会員の方々に配布を希望する資料等をお持ちの方は、受付までお持ち下さい。また、若干ではありますが、教育書籍の展示販売も行います。
5. 情報交換会： 会員・非会員は、3,000円
院生・学生は、1,500円
6. 連絡先： 常磐大学 人間科学部 教育学科 森山賢一研究室
〒310-8585 茨城県水戸市見和1丁目430-1
TEL/FAX：029-232-2574
Mail：kenichim@tokiwa.ac.jp
7. 昼食： 昼食の必要な方には、当日受付でお弁当を、550円にて販売いたします。
8. 駐車場： 当日、同窓会館脇の駐車場にて、スタッフがご案内いたします。

会場建物配置図

自由研究発表 第1会場 10:00 ~ 12:00 (同窓会館2F 会議場)

- 座長 藤田 文子 [茨城大学教育学部]
- 10:00 習熟度別指導の理念と個に応じた指導に関する一考察
—その展開と運営を中心として—
森山 賢一 [常磐大学人間科学部]
- 10:30 南極昭和基地との交信を通じた授業実践
—第48次日本南極地域観測隊員との交流を通して—
千葉 雄司 [慶應義塾幼稚舎]
森山 賢一 [常磐大学人間科学部]
- 11:00 生徒の心がわかる教師力
—集団思考と自由討論によるアイデア開発法の重要性にかかわって—
柏 頼英 [常磐大学人間科学部 (非)]
- 11:30 音楽における「耳を開く」試み
鈴木 珠奈 [慶應義塾幼稚舎]
鈴木 秀樹 [慶應義塾幼稚舎]

自由研究発表 第2会場 10:00 ~ 12:00 (同窓会館1F 楓ホール)

- 座長 瀬尾 京子 [常磐大学人間科学部 (非)]
- 10:00 『写生を主としたる綴方新教授 細案』から
駒村徳寿, 五味義武の描写表現指導観をさぐる
渡邊 洋子 [常磐大学人間科学部]
- 10:30 作文指導における<実の場>と<虚構の場>
大内 善一 [茨城大学教育学部]
- 11:00 「自己表現力をはぐくみ, 実践的コミュニケーションの基礎を培う
英会話教育の在り方」
—幼稚園・保育所・中学校との交流活動を通して—
岡部 佐知子 [水戸市立稲荷第一小学校]
福島 ひろみ [水戸市立稲荷第一小学校]
田村 亜樹子 [水戸市立稲荷第一小学校]
- 11:30 生きる力につながる楽しい読書活動の実践
—読書集会, 手紙での交流活動, 古典の暗唱等をとおして—
米川 博美 [水戸市立大場小学校]

自由研究発表 第3会場 10:00 ~ 12:00 (諸澤みよ記念会館 1F)

座長 中川 稔 [小美玉市立小川小学校]

10:00 新しい批判的教育学の可能性
ーマッシュェ・ラインのころみを中心にー
藤井 佳世 [鎌倉女子大学児童学部]

10:30 学習意欲の向上や学習習慣の定着を図る学級経営のあり方
ー学級通信や生活記録ノートを通してー
岡村 直之 [水戸市立内原中学校]

11:00 複式授業や極少人数の利点を生かした
「話すこと・聞くこと」の授業展開の工夫と改善
遠藤 直美 [高萩市立君田中学校]

11:30 生涯学習行政の新たな挑戦
ー産学官連携による小中学校教科授業の展開ー
岡田 豊明 [水戸市教育委員会みと好文カレッジ]
金藤 ふゆ子 [常磐大学人間科学部]

理事会 12:00 ~ 12:50 (同窓会館 2F 会議場)

※ 12時から12時50分までを休憩および昼食の時間といたします。

※ 当日受付で、昼食(550円)を申し込まれた方には、『同窓会館』にてお弁当を販売いたします。

環境教育の新たな展開 —新学習指導要領における社会の変化に対応する教科横断的課題—

講師 教育実践学会理事 大 高 泉
[筑波大学大学院人間総合科学研究科教授]

最近、環境教育の枠組みは、国際的にも国内的にも変化しつつある。国際的には、ESD（持続可能な開発のための教育、Education for Sustainable Development）の進展によりその枠組みは急速に拡大した。日本でも2005年からESDの10年が始まった。国内的には、こうした方向での環境教育を推進するために、「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」（「環境教育推進法」）（2003）が公布され、翌年そのための基本方針が閣議決定された。また、16年ぶりに『環境教育指導資料』（小学校編）が改訂された。一方、教育基本法や学校教育法の改正にともない「環境保全に寄与する態度を養うこと」が義務教育の目標として明確に位置づけられた。そして新学習指導要領においても、「社会の変化への対応の観点から教科等を横断して改善すべき事項」として環境教育がますます重視されている。講演では、ドイツの環境教育との比較も手がかりにしつつ、環境教育の展開と新しい動き、現在の環境教育が抱える問題等々について共通理解を図りたい。

プロフィール：1952年、茨城県城里町（常北町）生まれ、筑波大学大学院博士課程単位取得退学、筑波大学助手、高知大学助教授、筑波大学助教授等を経て、1997年筑波大学教授。大学院博士課程教育学研究科長、教育学系長を歴任、現在、筑波大学大学院人間総合科学研究科教授、大学院修士課程教育研究科長、博士（教育学）。

その他：日本理科教育学会副会長、日本教科教育学会理事、日本科学教育学会理事。文部科学省大学設置・学校法人審議会専門委員、日本学術振興会・科学研究費委員会専門委員、中央教育審議会・小中理科専門部会主査などを務める。

著書："Umwelt-Bildung", (Hermann Luchterhand Verlag,1995、分担)、『ドイツ科学教育論研究』（協同出版、1998）など。

趣味：溪流釣り

シンポジウム

14:10 ~ 16:10

(同窓会館 1F 楓ホール)

新学習指導要領への対応 —学校教育における実践的課題—

シンポジスト

本田 和夫 [水戸市立第一中学校校長]

大高 泉 [筑波大学大学院人間総合科学研究科教授]

安井 一郎 [獨協大学国際教養学部言語文化学科教授]

折本 正巳 [水戸市総合教育研究所指導主事]

2008年3月、新学習指導要領が告示された。今後2009年から移行処置に入り、小学校は2011(平成23)年度から、中学校は2012(平成24)年度から全面実施される。

この新学習指導要領は、これまでのゆとり教育から一転、30年ぶりに主要教科を中心に授業時数と指導内容を増やし、改正教育基本法に対応した公共の精神や伝統文化の尊重など新たな考え方や目標を盛り込んでいる。特に、学力調査を踏まえ、基本的な知識や技能の習得し、これを活用する能力である判断力や表現力、そして学習意欲を養うことを明確にしたうえで、①言語活動の重視、②理数教育、③伝統文化の教育、④道徳教育、⑤体験活動、⑥外国語教育の充実を主な改定ポイントとしている。今後の実施に向けては、現場におけるさまざまな環境の整備が求められているといえるであろう。

本シンポジウムでは、新学習指導要領への対応について、特に教科教育、教科外活動、学校経営、教育行政の立場から検討を進め、学校教育における実践的課題を明確にしたい。

総

会

16:20 ~ 16:50

(同窓会館 1F 楓ホール)

学会長挨拶

菊池 龍三郎 [茨城大学学長・教育実践学会会長]

情報交換会

17:00 ~ 18:30

(同窓会館 2F 会議場)